

事業概要シート

担当部名	産業振興部	事業名 (子事業名)	厚木市商店会連合会振興費補助金
担当課名	商業にぎわい課	根拠法令・例 規・要綱等	厚木市商店会連合会振興費補助金交付要綱
担当係名	商業にぎわい係		
事業開始年度	昭和35年		
関連する事業 (子事業名)			
事業概要			
目的	本市商業の振興を図るため、商店街や商店の活性化に資する取組に対し支援するものです。		
対象	厚木市商店会連合会		
実施方法	厚木市商店会連合会振興費補助金交付要綱に基づき、商店会連合会の事業費の一部を補助します。		
事業詳細	<p>商業の振興等を図るため、次の事業に対して補助金を交付します。</p> <p>1 商業振興事業：商店会の活性化と商業振興を図るため、各商店、商店会、市商連と連携し、販売促進事業等を実施しています。また、各店舗に呼びかけを行い、SNSを利用し、店舗情報等を発信し、にぎわいの創出を図ります。</p> <p>2 後継者育成事業：次世代の担い手となる若手経営者に商店会活動の良さを知ってもらうため、若手経営者を支援する組織を作り、商店会等のイベントを盛り上げ、後継者にも参加しやすい環境を提供するための事業を実施します。</p> <p>3 街づくり環境整備推進事業：後継者のパートナー不足が、店舗の存続にも影響を与える状況となっており、それに対処すべく婚活事業に取り組んでいます。また、平成29年度は、シルバー世代の健康応援イベントを開催し、元気に街を歩き、買物を楽しんでもらう事業を実施します。</p> <p>4 愛市購買推進事業：「お買い物は厚木市内で…」をキャッチフレーズに、市内企業、行政機関と協力し、各商店会ごとに販売促進を進め、市内での買物促進を図ります。</p> <p>5 商店街活性化事業：厚木の顔である本厚木駅及び中心市街地のにぎわい創出を図るため、環境美化を推進し、商店街の活性化を図ります。</p>		
事業の効果	市内商業の総合的な核となる厚木市商店会連合会の事業を充実することで、厚木市の商業活性化と振興を図ることができます。		
事業周知方法 ・内容	厚木市商店会連合会ホームページ等		



代表的な事業指標	指標名	厚木市中心市街地通行量調査					
	指標の説明	中心市街地6地点の休日、平日、2日間(8時~20時)の合計の歩行者数					
		単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標備考
	目標	人	109,000	110,000	111,000	112,000	
	実績		91,340	106,254	112,365		
	達成率		83.8%	96.6%	101.2%		
事業のコスト							
コスト	単位	平成27年度(決算)		平成28年度(決算見込み)		平成29年度(予算)	
	事業費	千円	7,319	8,054	7,932		
	人件費		1,263	1,292			
	経費総額		8,582	9,346			
人件費内訳	平成27年度人件費内訳(単位:千円)			平成28年度人件費内訳(単位:千円)			
	行政職1	@ 8,421 × 0.15 人 =	1,263	行政職1	@ 8,610 × 0.15 人 =	1,292	
	行政職2	@ 8,304 × 人 =	0	行政職2	@ 8,472 × 人 =	0	
	消防職	@ 8,672 × 人 =	0	消防職	@ 8,719 × 人 =	0	
	再任用	@ 3,514 × 人 =	0	再任用	@ 3,716 × 人 =	0	
	臨時職員	@ 1,186 × 人 =	0	臨時職員	@ 1,197 × 人 =	0	
	その他	× 人 =	0	その他	× 人 =	0	
事業費及び 財源内訳 (千円)	年度	総額	一般財源	国県支出金	市債	その他	
	H27(決算)	7,319	7,319	0	0	0	
	H28 (決算見込み)	8,054	8,054	0	0	0	
	H29(予算)	7,932	7,932	0	0	0	
事業費内訳	【平成29年度予算の内訳】						
	負担金、補助及び交付金	7,932千円					
	(内訳)						
	(1) 商業振興事業	5,750千円					
	(2) 後継者育成事業	148千円					
	(3) 街づくり環境整備推進事業	185千円					
	(4) 愛市購買推進事業	136千円					
	(5) 商店街活性化事業	1,713千円					
市民要望 社会的要請 課題	<p>来街者アンケートによりますと、商店街の必要性については、「必要である」「あると便利」の回答を合わせると9割を超えています。また、本厚木駅周辺の商店街の魅力向上については、「商品の充実」が4割を超え、次いで、「各商店の特色や個性の向上」となっています。</p> <p>インターネットを利用した商品販売の急速な浸透など、商業を取り巻く環境は著しく変化しています。商業を取り巻く環境の変化により、商店会には、「地域住民への身近な購買機会の提供」や「地域のにぎわいの創出」、「地域コミュニティの担い手」が求められています。</p> <p>多様化する消費者ニーズや動向に対して、商店会ごとに対応することは難しく、各商店会や大型店が一体となった広域的な商業形態を創出することで、消費者の要望に適切に対応し、来街者の増加や街のにぎわい創出していくことが課題となります。</p>						
上記課題等への 対応や見直しの 方向性	平成29年度から、商店会連合会が中心となり、中心市街地に立地する大規模小売店舗及び各商店会がパートナーとして連携し、中心市街地大規模小売店舗・商店会ネットワーク連絡協議会を設置し、中心市街地全体で商業振興を図っていきます。						
直近3年以内 の事業見直しの 有無とその内容	見直しの有無	無					
近隣自治体等 の状況	<p>人口類似都市では、次のとおり補助金を交付しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平塚市(補助額 863,000円) 類似補助金として4,380,000円が別途交付されています。 茅ヶ崎市(補助額 5,684,666円) 						

【事業番号7】商店会連合会振興費補助金(事前確認・回答)

委員事前確認事項	
1	同規模の自治体である茅ヶ崎市や平塚市と比較して、どうして予算額が大きく異なっているのか、その理由を把握しているか。
2	市が商店会連合会に補助することで、最終的に市民はどのようなメリットを享受することができるのか。

担当課事前回答
平塚市では、商店会連合会への補助金(863千円)とは別に、商店会連合会が構成員となっている別団体に補助金(4,380千円)が交付されているなど、本市とは補助金の交付手法が異なるため、予算額も異なります。
商店会連合会が商店会や商店を活性化するための各種事業を実施することにより、地域に親しまれ・魅力のある商店街が形成され、市民の皆様にとって、身近で利便性の高い商店街となります。

商店会一覧

No	商店会名	加盟店舗数
1	中央通り名店街	19
2	厚木なかちょう大通り商店街振興組合	49
3	一般社団法人あつぎ商和会	150
4	東町商栄会	12
5	元町商工睦会	23
6	高校通り商友会	28
7	厚木みなみ商工クラブ	141
8	厚木一番街商店街振興組合	44
9	寿町通り商店会	19
10	宿愛甲商工振興会	89
11	緑ヶ丘中央商店会	22
12	玉川商栄会	30
13	睦合商工振興会	16
14	依知商工親和会	30
15	パティオとびお	8
16	林商工倶楽部	24